|  |
| --- |
| **Ecma Open XMLを活用し、画面に表示された情報の漏洩を防ぐビヨンディット社の最新テクノロジー、CrypType** |
| **パソコンから漏れる微弱な電磁波を解析し、画面に表示されている情報が漏洩する「電磁波情報漏洩」。株式会社ビヨンディットは、最後のセキュリティホールとも言える電磁波情報漏洩に対し、Open XMLを活用したCrypType（クリプタイプ）で対応する。** |

**広く利用できる電磁波漏洩対策が鍵**

ファイアーウォールの構築やウィルス対策ソフトウェアの導入など、多くのパソコン利用者がなんらかの形でセキュリティ対応を行っているが、画面上に表示された情報の盗聴に対しては、その対応が一般化している状態とは言えない。最後のセキュリティホールとも言えるこの電磁波情報漏洩は、現在、問題になっており、ITU-T（国際電気通信連合 電気通信標準化部門）のような国際機関でも議論が始まるなど、社会的な関心が高まってきている。高機能な電波測定機が低価格で入手可能になったことにより、盗聴できる環境を容易に構築することができるようになったことも、この問題が再注目されだした背景のひとつである。

「今まで、この問題に対しては、ハードウェアを利用した対策がほとんどでした。ネットワークで簡単に情報共有が行われる時代には、特殊なハードウェアを利用する対策ではなく、一般に利用されているパソコン上での情報漏洩対策が必要となります。このような社会的な要請に応えるため、多くの人が使える製品としてCrypTypeの開発を行いました。」

株式会社ビヨンディット　代表取締役社長の宮田 泰彦 氏は、電磁波情報漏洩に対して、一般のパソコン利用者でも利用できる技術の必要性と開発

の背景について、こう話す。

「共同研究先のNiCT (独立行政法人　情報通信研究機構)に元となる基礎技術はありましたが、そのままでは実用化が難しい状況でした。そこで，NiCT情報通信セキュリティ研究センター・関口秀紀研究員と弊社で共同研究を行い、新たな情報工学上のアイデアを加え、CrypTypeの開発をおこないました。」

CrypTypeは、マイクロソフト イノベーションアワード2007 のコマーシャル部門において優秀賞を受賞し、その他メディアでも取り上げられており、そのテクノロジーの先進性と有効性に注目が集まっている製品である。また、現在、ビヨンディット社は、NiCTと協力し、マイクロソフトのTechEd 2007やその他のイベントに積極的にCrypTypeを出典し、製品の普及だけでなく、電磁波情報漏洩の脅威に対する啓蒙活動も行っている。

**電磁波の盗聴では再現困難な特殊なフォン ト生成方式**

「CrypTypeは特殊なフォント生成方法を用い、文字をぼかすことで、発生する電磁波を解析しても、内容を再現するのが困難になります。」と宮田氏はCrypTypeの特徴を話す。

すなわち、CrypTypeを利用した情報は人の目には見えるが、電磁波の盗聴を行った場合には解読不能な状態で表示されるので、情報の漏洩を防ぐことができるのである。

さらに宮田氏は、CrypTypeの利便性について以下のように続ける。

「電磁波情報漏洩を防止するためのフォント生成方式であるCrypTypeは、MicrosoftⓇOffice Word 2007上で利用することができます。CrypTypeは、Word 2007のアドインソフトウェアとして利用することができるので、利用者は電磁波情報漏洩を防止できる文書を作成することができます。また、文書の閲覧者もCrypTypeを利用して文書を開くので、電磁波情報の漏洩を防ぐことができます。一方、有償のCrypTypeをインストールしていない状態で文書を開いた場合は、Word 2007の画面上に、ビューアのダウンロードおよびインストールが必要である旨のメッセージが表示されます。これは電磁波的に無防備な状態で重要な情報を表示しないための工夫の一つです。このCrypTypeビューアはインターネット経由で無償ダウンロード提供する予定ですので、どなたでも利用することができます。」

**Open XMLを活用した効率的な開発**

「CrypTypeに利用した基礎技術の研究・開発は、数年にわたり行われていますが、製品自体の開発は2006年の冬頃から始めました。核となるフォントの生成方式部分は、アイデアの具現化や実装に苦労しました。また、情報漏洩防止機能を、ソフトウェア購入者だけでなく、無償版のビューアの利用者でも利用することができるようにするための仕組みの検討段階で試行錯誤を繰り返しました。その過程で、Open XMLテクノロジーの活用を思いつき実装を進めました。実装を始めると、Open XMLに関する部分は、仕様が公開されていたため、あまり開発に工数をかけることなく、スムーズに進めることができました。旧来のバイナリファイル形式とは違って、XML Parser でファイル内の要素にアクセスし、データのハンドリングが容易である点も、開発時の工数削減に多いに役に立ちました。やはりOpen XMLの大きなメリットは、仕様が公開されているところでしょう。また、高度な情報漏洩対策を必要とする組織のお客様が最もよく利用しているMicrosoft Office製品と組み合わせて利用することができる点も大きなポイントです。

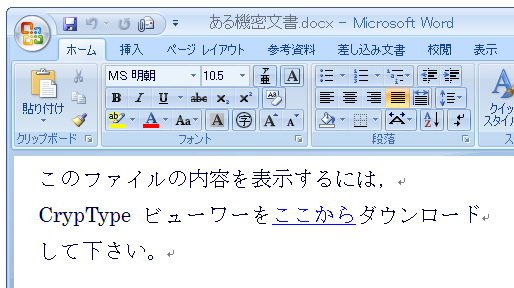
Open XMLがなければ、このようなソフトウェアの実現は困難であったと思われます。」

宮田氏は、このようにOpen XMLの採用に至った経緯とOpen XMLのメリットを語る。

**CrypTypeの今後の展開**

宮田氏は、対策が求められる電波情報漏洩への対応製品であるCrypTypeの今後の展開として次のように語る。

「広くお客様に利用していただけるよう、パッケージ製品としての販売と、無償のダウンロードビューアの組み合わせでご提供する予定です。また、今後、お客様やパートナー様のご要望をくみ取り、さらなる機能や利便性の向上のため、Open XMLのより深い部分の機能を利用していきたいと、考えております。」



C:\Users\tetsuyay\Desktop\BeyondIT_Logo_W_Transparent_Small.png

**企業紹介**

**株式会社 ビヨンディット**

**会社プロファイル**

ITの本質を理解することで、ITだけでは超えられない壁が見えてくる。懸命に情報技術を使いこなす人こそが、お客様や社会に、そして世界に、何か便利なことを、新しい価値を、とてつもない発想を供することが出来る。Beyond IT。私たちは、ITを超えた地平を真摯に見つめています。

**自社製品紹介サイトURL**

<http://www.beyondit.jp/>

<http://CrypType.com>

無償版のCrypTypeプラグインビューアを利用することで、電波情報漏洩を防止する文書閲覧が可能になる。

CrypTypeをインストールしていないユーザーが、閲覧する場合に、ビューアのダウンロードに関するメッセージが表示される。

**Ecma Office Open XML** に関する情報については、**http://www.microsoft.com/japan/interop/openxml** をご覧ください。

※ Microsoft、Windows, Office ロゴ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ その他、記載されている情報等は、マイクロソフトのパートナー各社における製品、サービスおよびソリューションであり、それに付随するロゴは商標または登録商標です。

※ 本リーフレットの内容は 2007 年 11 月現在のものです。

**製品に関するお問い合わせは、次のインフォメーションをご利用ください。**

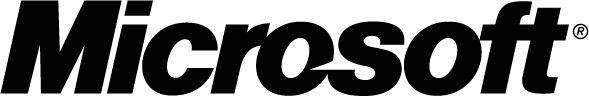
■ インターネット ホームページ　 <http://www.microsoft.com/japan/>

■ マイクロソフト カスタマー インフォメーション センター　0120-41-6755

（9:30 ～ 12:00、 13:00 ～ 19:00 土日祝日、弊社指定休業日を除きます）※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

**■ご購入に関するお問い合わせは、マイクロソフト認定パートナーへ**

■ マイクロソフト認定パートナー　<http://www.microsoft.com/japan/partners>

〒 151-8583　東京都渋谷区代々木 2 丁目 2 番地 1 号　小田急サザンタワー